

今週末はバレンタインデー。チョコレートをももらったり、自宅で手作りしたりする人もいるかと思いますが。しかし、チョコをテーブルの上などに置きっぱなしにするのは要注意。人にとってはおいしくて体にもいいとされるチョコですが、犬や猫にとっては命に関わることもある危険な食べ物だからです。

チョコの主成分は「カカオ」ですが、そこに含まれるテオブロミンという物質は、犬猫の中枢神経に作用し、不整脈やけいれん、嘔吐などを引き起こす可能性があります。カフェインと似たような作用で、「チョコレート中毒」とも呼ばれます。中毒



動物には甘いチョコは危険

は、カカオ含有量の多いチョコほど発症の可能性が高まります。製菓用のチョコや、苦みのあるビターチョコは、含有量が高いので特に注意しましょう。

体重10kgの犬は、約100gのチョコを摂取すると中毒になる可能性があります。体重が1～2kgの小型犬は、小さなチョコ1粒でも起こり得るということです。万一、犬や猫がチョコを食べてしまったら、すぐに動物病院でチョコを吐かせるなどの処置をしてもらってください。その時に、カカオの含有量やチョコ

の種類、食べてしまった量を医師に伝えてください。

また、テオブロミンはお茶やコーラにも含まれていますので、誤って与えないように気をつけましょう。

その他にも、ネギやレーズンなど、意外と知られていない有害な食べ物もあります。

「人が食べられるものならあげても大丈夫」と思わず、危険のない食材かしっかり確認することが大切です。食べてはいけないものは、棚にしまうなど工夫しましょう。

(アニコム損保

獣医師 古沢優)